郡山ブランド協議会とは・・・？

平成２３年１月発足のブランド野菜に特化した組織。郡山野菜の風評被害克服や郡山ブランド野菜の更なる進化、平成２３年度の食と地域の絆づくり被災地緊急支援事業を受託し実施するチームとして、あおむしくらぶ※内のメンバーで結成。

震災後の行政支援の受け皿ともなっており、将来的には法人化、機械利用の共同化や財産管理などを視野に入れている。

※あおむしくらぶ

郡山市に根付く新たなブランド作物をつくるため、栽培方法の統一を図り、生産履歴の徹底を行いながら、消費者に、安全・安心な食を提供する事を目的として設立。

平成１９年３月６日に設立し、本年で満７年を迎える。

●ブランド野菜の特徴

- 形の揃いや保存性など市場向けであることよりも、本当においしい品種であることを重視して選定。
- 栽培方法の統一を図り、生産履歴の徹底を行うことで、品種のぶれを解消。
- 栽培勉強会を頻繁に開催し高い品質の維持に努めている。

2013年ブランド野菜
『おんでんかぼちゃ』

第５回野菜ソムリエサミット
上位入賞　『御前人参』

第16回野菜ソムリエサミット
購入評価部門第3位、食味評価部門第5位
『めんげ芋』

●郡山ブランド協議会　今までの活動

【あぐり市の開催】

生産者から直接、消費者、ご家庭の方や地元の食品加工業者さんや料理人の方などにもブランド野菜を知ってもらうべく開催。野菜の直売をはじめ野菜の食べ比べ、会員の作品（野菜）の展示会、市民参加のアグリアートなども行う。近年では、非常に好評のため開催回数が増え、開催場所が広がっている。

【イベント実施】

国立ファームとのコラボイベントで田植え体験、郡山市立美術館で農のアート体験ができる美術館マルシェの開催など、様々なかたちで野菜の魅力発信に取り組む。

【栽培勉強会】

あおむしくらぶの会員同士で「栽培勉強会」を頻繁に開催。人参部会や枝豆部会など担当者を決めながら野菜の高い品質維持に勤めている。

●「新しい東北」官民連帯推進協議会　先導モデルの「郡山ブランド協議会」

郡山ブランド協議会は復興庁の「新しい東北」官民連携推進協議会に先導モデルとして加盟。「新しい東北」は、東日本大震災からの復興の加速化を図るとともに、復興を契機に、人口減少、高齢化、産業の空洞化等の地域の抱える課題を克服し、我が国や世界のモデルとなる創造と可能性の地としての「新しい東北」を実現するための事業展開を目的としている。

復興庁
Reconstruction Agency

＜具体的な活動状況＞

地域野菜におけるブランド化の推進及び包括的情報発信システムの構築

取組①ブランド野菜の栄養成分分析及びレシピ開発

（会議）第1回プロジェクト全体会議 （11月4日　郡山市）
　　　　第2回プロジェクト全体会議 （11月30日　郡山市）

着手初年度であることから全体の計画策定を中心とした取り組みを行った。郡山の日本調理技術専門学校と連携し、平成25年度に特性把握をする野菜4品種（御膳人参、紅御膳、冬甘菜、めんげ芋）を選定し分析をする内容と項目を設備や効率の面から選別した。

（分析）12月1日～12月20日

冬甘菜の特徴としての甘さを評価するための予備実験を行った。キャベツは外側から芯に向かって糖度が増すといわれているが、実際に外側の葉と芯に近い部分との甘さの比較については、具体的な評価結果がほとんどない。そこで、キャベツのBrix値で示した糖度がサンプリング位置でどの程度変化するかを試験した。

図1-1-2　鬼葉を含む外層2枚を除去したキャベツ
左、市販キャベツ（茨城県産）；右、冬甘菜（鈴木農園）

図1-1-3　全ての葉を分離した状態のキャベツ
上段、冬甘菜（鈴木農園）；　下段、左、市販キャベツ（茨城県産）

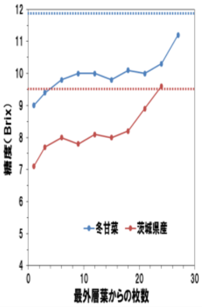


図1-1-4　キャベツの葉の位置とBrix濃度との関係
-●-、冬甘菜（鈴木農園）；-●-、左、市販キャベツ（茨城県産）
破線は芯の部分のBrix濃度：青は冬甘菜（11.8％）、えんじは茨城県産キャベツ（9.4％）

＜ブランド野菜　栄養成分分析予定品＞

紅御前

冬甘菜

めんげ芋

御前人参

取組②解析データの可視化及び映像制作

（包括的情報発信システムの構築）

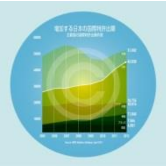
各解析データを分かりやすく、可視化するためのサイトデザインを協議した。解析データの種類を分析し、設計段階におけるデータの見せ方を検討。今後の構築に向けて各担当者との協議を進めている。

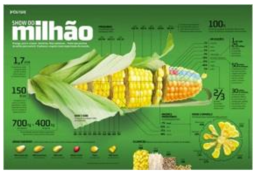
グラフの見せ方【案①】

そもそも“データを見たい人は最初から詳細を知るために訪れた人である”と仮定し、きちんとデータを見せるスタイル。

グラフの見せ方【案②】

インフォグラフィックに振る。視覚から興味を引き、自然にデータを読ませることができるが、プロ向けにこの見せ方が効果的かは要検討。





（サイトの設計）12月1日～12月20日

解析データ（栄養素及び味覚）の可視化や生産者の紹介など、基本情報を消費者に分かりやすく見せる設計を検討。また、生産工程に関しても映像を撮影することに着手。